

5-2 八千代市小池の新発見の題目板碑

藤 由美

はじめに

令和6年度の小池地区の総合調査で、新たに題目板碑が1基見つかった。小池地区では、19基の板碑が記録されていて、今回の発見で20基目、八千代市内で168基目、市内日蓮宗地域の有刻板碑（注1）として41基目となる。

以下、この新発見の板碑の概要と意義について報告する。

1. 新発見の板碑の概要

小池の聞き取り調査で今回初めて所在がわかった板碑は、浅野弘行家の通称「寺山の畑地」から見つかったものである。同家は『八千代市の歴史 資料編』（注2）などで12基の題目板碑の所在地とされている「浅野七男家」後継のお宅で、その後の調査で3基、計15基が報告（注1）されており、新たに本板碑を加えて計16基となる。

2024年5月28日、青田会員が同家からお借りして郷土博物館に持参され、写真撮影と拓本採取、法量測定を行った。

緑泥片岩の武蔵型板碑で、大きさは高さ40.5×幅15.5cmで、上部が欠損している。

銘は「〔 〕妙法蓮華經／〔 〕宝如来／〔 〕釈迦牟尼佛（ママ）／妙法尼逆修／石佛／明應二二年乙卯八月日敬白」であった。

拓影と銘文翻刻は、次ページの表のとおりである。

2. 本板碑の特徴と意義

「南無妙法蓮華經」の題目の右脇に「多宝如来」、左脇に「釈迦牟尼仏」（本板碑では「釈迦牟尼佛」銘）を配する「題目二尊」の「曼荼羅」型式の日蓮宗系の典型的な板碑である。

「妙法尼」が本人の「逆修」のために造立した「石佛」で、年銘の「明應二二（四の異体字）年」は明應4年（1495）で年銘と人名が判明できる「逆修」の題目板碑であった。

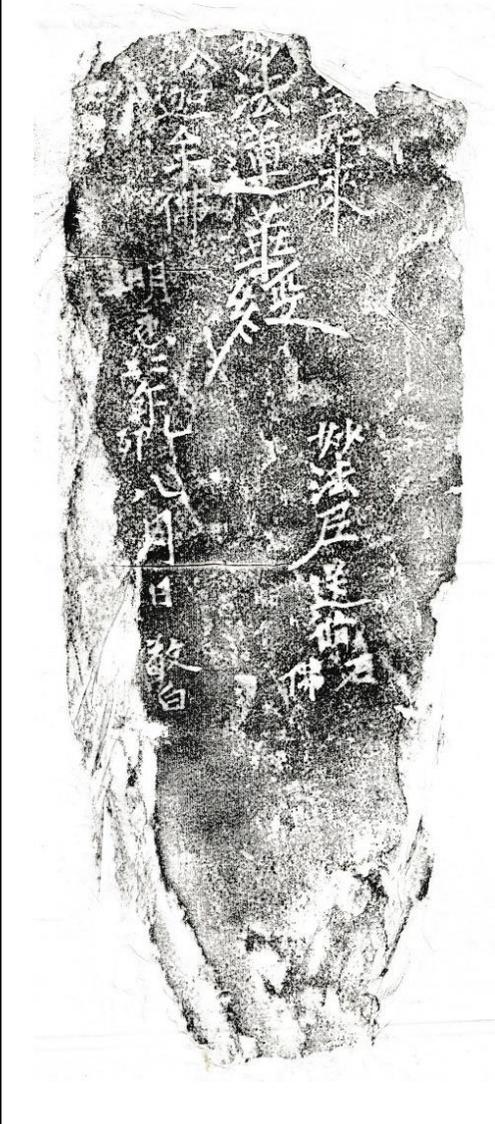
「逆修」とは、本人が生前に後生安楽を祈る法要のことであり、故人の追善のために3～33年などの回忌に建てる石碑と異なり、建てた正確な造立年銘がわかる貴重な史料である。他に浅野七男家畑から出土した延徳2年（1490）の題目板碑がこれまで市内唯一の「逆修」銘板碑（注1）であったが、本板碑はその2例目となる。

「石佛」の銘は、延徳4年（1492）銘の小池妙光寺の曼荼羅板碑（注3）にも「妙法比丘尼石佛也」とあり、板碑は「石の仏」として認識されて礼拝対象であったことがわかる。また本板碑の「妙法尼」は、延徳4年銘の妙光寺板碑銘の「妙法比丘尼」と同一の女性であったと推察される。

本板碑は、緑泥片岩に混じる雲母が輝いて神々しく、所蔵するお宅では「今も大事に

拝んでいる」とのことであった。

表 小池の明應4年銘題目二尊の曼荼羅板碑（2024年発見 八千代市内板碑集成 No. 168）

		<p>〔 〕 宝如来 〔 〕 妙法蓮華經 〔 〕 釈迦牟尼佛</p> <p>明應二年卯乙八月日 敬白</p> <p>妙法尼 逆修 佛石</p>
--	--	---

注

1. 蕨由美「佐山・真木野などの板碑調査と八千代市日蓮宗地域の有刻板碑の集成」『史談八千代』第48号 2023年 八千代市郷土歴史研究会
2. 「第二章中世 九金石文」『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市 1991年
3. 蕨由美「『八千代市の歴史 資料編』未掲載の板碑データ2ー下高野（補遺）& 萱田君塚家墓地・小池妙光寺の板碑についてー」第47号 2022年 八千代市郷土歴史研究会